「秋のレビュー」（２日目）

オープニングセッション

平成26年11月13日（木）

内閣官房　行政改革推進本部事務局

○出席者

司　会：市川行政改革推進本部事務局次長

評価者等：石堂評価者、上山評価者、太田評価者、豊田評価者、松本評価者

○市川次長　ただ今から「秋のレビュー」２日目を開催いたします。司会を務めます行政改革推進本部事務局の市川です。本日もよろしくお願いします。

昨日に引き続き、本日も具体の議論に入ります前に、議論に御参加いただく評価者の先生方への質問の時間を設けたいと思います。まずは評価者の先生方を一人ずつ御紹介いたします。

法政大学国際文化学部准教授、松本悟様

公益財団法人交通協力会理事、石堂正信様。

ポールヘイスティングス法律事務所・外国法共同事業弁護士、上山直樹様。

慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授、太田康広様。

東京桜橋法律事務所弁護士、豊田賢治様。

先生方、よろしくお願い申し上げます。

さて、視聴者の皆様からの御質問ですが、行革事務局はホームページを開設しておりまして、ツイッターやメール等で皆様の質問をお受けいたしますので、奮ってお寄せください。

皆様からの質問が取りそろいますまでの間、まずは私から行政事業レビューの取組について簡単に説明いたします。カメラは１番目のフリップを映していただけるでしょうか。

「行政事業レビュー」とタイトルに書いてございます。

この行政事業レビューとは、各府省が事業の執行を通じた政策目標の達成状況などを自己点検し、点検結果を事業内容の見直しや新年度の概算要求に反映する取組です。

自己点検の結果は、事業の概要とあわせ、各府省から８月末の概算要求時にレビューシートという形で最終公表されています。今回、秋のレビューで取り上げる事業のレビューシートは行革事務局の特設ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

この「秋のレビュー」は、各府省の点検結果を改めて精査するものです。予算の削減というよりは、事業の改善を重視した取組ですが、議論の成果は新年度予算にも的確に反映されることが期待されています。

次の３日間のスケジュールのフリップを映してください。

きょうは、２日目でございます。

「国際機関への拠出金等に関するＰＤＣＡサイクルの在り方」「地球温暖化対策に関するＰＤＣＡサイクルの在り方」「東京オリンピック・パラリンピックに向けた選手強化に関する事業の在り方」「大学における理工系人材育成の在り方」についての議論が行われます。

昨日も申し上げましたが、先生方には、担当省庁からのヒアリングを含め、事前に入念

に勉強いただいております。本日の議論は、その集大成として結論をとりまとめるものです。決して短時間に乱暴に結論を出すものではないことを御理解いただければ幸いでございます。

４番目の基金のフリップを映してください。

本日最後のテーマは、18時40分頃からの「基金に関する事業」です。地方自治体に造成されたものを除きまして、いわゆる基金は25年度末で約３兆円の残高がありますが、各方面から使用見込みの低い資金を国庫返納する必要性が指摘されてきました。

政府行革としては、基金の執行等の透明性を確保するため、昨年より各府省に基金シートの作成、公表を求め、余剰資金の有無を自己点検するよう、要請しております。こうした取組もあって、今年度は９月末までに約1,100億円の国庫返納がなされました。

他方、依然として将来の使用見込みを甘く見積もっているような基金も見受けられることから、本日は、３つの基金を取り上げて精査し、余剰資金の有無を中心に検証していただきます。

さて、ここからは有識者の先生方に、秋のレビューや行政事業の見直しについての皆様からの質問にお答えいただきます。そして、皆様に行政事業レビューをもっと身近に感じていただけたら幸いでございます。

質問の状況は、どうでしょうか。

まだ質問が入っていないようでございますので、私から順番に御質問させていただきます。

豊田先生は、本年６月から行政事業レビューの取組に御参加いただいて、公開プロセスに御参加いただいたと承知しておりますが、行政事業レビューの取組をどのようにご覧になっておられ、また、議論に参加してどのような感想をお持ちになられたか、御説明いただけますでしょうか。

○豊田評価者　豊田です。

まだ２回目ということで、まだまだ経験が足りない部分はあるのですけれども、前回の公開プロセスも経て、まず思ったのは、時間が足りないというところです。

各事業はそれなりに複雑で、いろいろな側面から見る必要が本来はあるはずだと思うのです。もちろん、たくさんの事業があるので、時間的制約はやむを得ないのですが、事前ヒアリング等を経てもなお、もう少し情報が欲しいかなとは感じるところです。

その上で、もちろん、なるべく分かりやすい資料で整理していただいて説明を受けているわけですけれども、もう一つ感じるのは、これだけいろいろ説明をいただいても、すぐにこれは絶対必要で完全に相当な範囲でやっていると判断できるものは、それほど多くないということです。

ですので、引き続きこうした形で検証を続けていくのは、本当に重要で必要なことだと思います。

○市川次長　ありがとうございました。

本日、議論に参加する各府省の御協力も得て、できる限り、評価者の先生方の御質問に端的な情報が得られるようにして、効率的な議論を進めたいと心がけますので、よろしくお願いいたします。

太田先生は、これまで長年御参加いただきまして、非常にデータを重視する議論をされると承知しております。

これからの公務員には、データや客観的事実をもとに事業の意義や有用性を国民に説明する能力が、以前にも増して求められていると言われておりますが、公開検証に数多く御参加されて、そういう我々の能力は上がっていると御評価いただけるのでございましょうか。

○太田評価者　上から目線で評価する立場にはございませんけれども、行政事業レビューには第１回からずっと参加させていただいていますが、参加させていただいていて非常に強く思うのは、国家公務員の方あるいは官僚の方は、本当に国のことを考えられて、事業のことを真摯に考えられておやりになっている。

真面目に取り組んでいらっしゃるとか、悪意がないことに関しては全く疑いを持たないのですけれども、これはやった方が良いのだからやった方が良いのだと、信念に基づいてやるのだという御説明が結構あります。厳しい言い方をすると、ポケットマネーでやる限りは信念に基づいて行動していただければ良いのですけれども、国民から負託を受けた公的資金を使って､これはぜひ国のためにやるべき事業なのだということを示すのであれば、データに基づいて、このように効果があるのだということで、国民あるいは少なくとも国民を代表している人々に分かりやすく説得的に示す必要があるのだろうと思います。

それは、普通のビジネスでやる投資意思決定のハードルより高くなっているのだろうと思います。

だから、非常に行政事業レビューで言っていることは厳しいことを言っているようではございますけれども、公的な色彩を帯びた資金ということで、そのハードルを越えて事業をすることが、今後、ますます重要になっていくのではないかということで、厳しいハードルを課すところのレビューに、少しでもお手伝いができたらと思っております。

引き続き、よろしくお願いいたします。

○市川次長　ありがとうございます。

視聴者の皆様からの御質問、コメントが入ってまいりました。

「しっかりお願いします。」と。これは私どもへの注文ですので、心がけてしっかりやっていきたいと思いますが、２つございます。

どの事業がターゲットになるのだろうかということでございますが、上山先生、もう少

し上品な聞き方にさせていただきますと、本日、最後の基金のこまを除いた４つのコマに御参加されますが、特に先生としては、どのようなセッションに御関心をお持ちでいらっしゃいますでしょうか。

○上山評価者　どの事業がというのは、なかなか答えにくい。それぞれの事業につき、それぞれ何らかの議論する問題があるということで、今回、公開の場に選ばれているものだと思います。私の場合は、今日は４つに参加させていただくことになっておるのですけれども、それぞれについて、違った形の論点があると思います。それぞれの事業に応じた論点をきちんと真摯に議論して、正しい方向に進んでいけるような形にしていければとは思っております。

どの事業がというのは、正直なところ、なかなか申し上げにくいところではあります。

○市川次長　石堂先生は、昨日も議論に参加していただきました。昨日は、最後のセッションが国土交通省の案件だったと思います。

実は、今、視聴者からいただいている御質問の中に、「事前ヒアリングの成果はどこかに出ているのか。」という御質問がございました。昨日の最後の国土交通省の議論ですと、先生方からの事前の御質問を経て、彼らの予算要求内容は随分変わったものとして出てきたように承知しております。先生は、どのように評価されているでしょうか。

○石堂評価者　事前に説明を聞くことで、議論がすれ違わないようにということが、１つの大きな成果だと思います。

昨日の案件も、確かに国土交通省さんが事前説明のときと最終説明のときでかなり中身を変えてきました。

それは我々の議論を踏まえたものだったのですけれども、前に出してきた案は、結構長い時間をかけて形成されてきた案で、それを最後の段階で、ある意味では指摘を受けて少し変えたという感じになると、どうしても全体のストーリーが狂ってしまう感じがあったのではないかと思います。

つまり、国土交通省さんが最後に加えた変更が、いわば諸刃の刃であったのではないかという感じで、きのうの結論もあまり良い結論にはならなかったように思っているのです。

そういう意味でも、国土交通省さんを含めて、事前に説明を聞き、我々としてはこのようなところを問題に思っているのだということをやりとりすることは十分に意義のあることだと思いますけれども、それをやったからといって急に施策そのものが良くなるものでもないという感じも持っております。

○市川次長　なかなか厳しい評価であったかと思います。

自己点検でございますので、そこはいろいろな指摘を受けて改善というものが積み重な

っていく、あるいは、事業の見直しが一部では足りなくて、抜本的な見直しになり、事業の組みかえになるというような段階を追うものかと思っております。

最後になりましたが、松本先生はＯＤＡの専門家でいらっしゃいますが、ＯＤＡを含め、外交の世界はなかなか評価の基準も難しいですし、一般の事業ですと定量的な成果目標ということがよく言われるわけですが、それもなかなか難しいという指摘がございます。

このＯＤＡの世界においての評価の基準あるいは目標の立て方、こうしたものをどのように考えたらよろしいのかというところについて、御所見を賜れればと思います。

○松本評価者　ありがとうございます。

確かに、行政事業レビューは、おそらく見ている国民、市民の人たちが、行政をより身近に感じて、もっとこうしたら良いという、その端緒になることはすごく大きいと思うのですが、ＯＤＡは、現場が海外ですし、さらにその海外の中でも首都でないことも多くあるわけで、私自身、４年半ほど東南アジアの農村で活動した経験がありますので、遠くのものをどうやったら近くに感じられるかというところが、まずＯＤＡの中では第一歩かと思います。あまり抽象論ではなくて、具体的な話が必要かなと。

もう一つは、私自身、大学時代からを通じれば、30年ぐらいODAというものに関わってきましたけれども、とかく、外交上必要であるという一言で、しかも、外交というのは外務省のみが専門家である的なところがこれまで多かったと思うのですが、最近ようやく外交とは何であろうか、狭い国益と広い国益というような議論も、こうしたＰＤＣＡサイクル、今日やるような行政事業の枠組みの中で、議論できるようになってきたのは大きいと思いますので、ぜひＯＤＡは遠くのことを近くに感じるとともに、それがどのような成果があるのかということを、あまり狭い国益ではなくて、もう少し広い、日本あるいは地球の利益というものを考えながら議論をしていくという、その習慣が少しずつ付いてきている。

ここに一番意義があるのではないかと思います。

○市川次長　どうもありがとうございました。

視聴者の皆様からの御質問は、今、お伺いした２点なのでございますが、あとは、「今日はまともに税金を使ってくれるかな。」、「ばっさりいこう。」というコメントもございました。そこは、先ほどの「しっかりお願いします。」というメッセージとして受けとめ、我々、努めていかなければならないかと思っております。

先生方の御紹介、先生方への御質問も一巡しました。第１のセッションはこの後、13時半から、今、お話もありました、国際機関への拠出金等に関するレビューから開始いたします。

それまでの間、準備もございますので、暫時、画面を休憩とさせていただきます。